

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	新潟国際情報大学
設置者名	学校法人 新潟平成学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
国際	国際文化	夜・通信	12	0	25	37	13	
経営情報	経営	夜・通信		36	10	58	13	
	情報システム	夜・通信			32	80	13	
情報文化学部	情報システム	夜・通信	14	0	72	86	13	
(備考) 平成30年度より情報文化学部を経営情報学部へ改組したことに伴い、経営情報学部(1～4年次生)は新課程、情報文化学部(過年度生)は旧課程を記載。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.nuis.ac.jp/university_kyoikukohyo/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟国際情報大学
設置者名	学校法人 新潟平成学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.nuis.ac.jp/university_yakuin/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	新潟県健康づくり・ スポーツ医学センター長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日	教育・研究 改革推進
非常勤	北陸瓦斯(株) 代表取締役会長	令和元年12月22日 ～令和3年12月21日	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟国際情報大学
設置者名	学校法人 新潟平成学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)の作成過程、作成 <p>シラバスの作成過程にあたり、大学や学部の教育理念及び個々に行われる講義の目的、講義を通じて達成されるべき到達目標をカリキュラムポリシーやディプロマポリシーに沿って作成する。シラバスは、本学ポータルサイトにより、授業科目ごとに担当教員が作成する。シラバスの様式は、各回の授業ごとに項目と内容を記述する。なお、シラバスには、授業科目、単位数、開講学期、担当教員名、実務経験の有無、科目区分(カリキュラムマップへのリンク)、関連するディプロマポリシー、ナンバリング、授業の目的、学修到達目標、実務経験との関連性、授業計画、授業時間外の学習、成績評価(評価基準・方法、フィードバック方法)、アクティブラーニング(実施の有無・実施内容)、教科書/参考書、受講上の留意点等、JABEEについて記載する。</p> <p>シラバスの作成にあたり、履修学生が適切に授業を選択できるようにするため、内容の点検及び記載指導を行う。内容の点検は学部長、教務委員長、学務課長で構成されるシラバスチェック委員会で行う。点検作業により、不適切な箇所については修正を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公表時期 <p>シラバスが完成後、次年度向けのガイダンスが行われる前に公開する(概ね3月下旬)。大学のポータルシステム上でキーワード検索ができるようにデータベース化し、一般の人も含め日時を問わず常時閲覧できるように整備している。なお、大学のホームページでの公表も並行して行っている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://unipa.nuis.ac.jp/uprx
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>担当教員の主観的なものにならないように、学生にあらかじめ示した客観的な成績評価方法・基準をシラバスに記載している。成績評価方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果の評価を行い、単位を与えている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価においてGPA制度を用いて、客観的な指標を設定している。GPAの算出方法は、大学のホームページから一般の人も閲覧できるようになっている。具体的な算出内容は以下の通り。</p> <p>評価点：評価・GP点数 <u>100-90</u>：S・4、<u>89-80</u>：A・3、<u>79-70</u>：B・2、<u>69-60</u>：C・1、<u>59-0</u>：D・0</p> <p>すべての履修科目において、評価点数に対するGP点数(0-4)を科目の単位数をかけて点数をつける。計算した点数をすべて合計し、総履修単位数で割る。</p> <p>客観的な指標としての成績分布状況は、学部・学科・学年ごとに作成して把握している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.nuis.ac.jp/pub/common/pdf/seisekihyouka.pdf 成績評価【PDF】</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>大学や学部の教育理念に基づき、社会におけるニーズを踏まえ、学生がどのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのにかについて基本的な方針をディプロマ・ポリシーとして定め、大学のホームページで公表している。適切に実施しているかの確認は、シラバス作成時にシラバスチェック委員会において行なっている。学生が身に付けるべき資質・能力の目標を学修到達目標として明確に定め、具体的に示している。併せて、卒業要件達成状況の確認を教務委員会で審議し、全学教授会で審議・承認を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>・学生便覧 ・ホームページ ディプロマポリシー https://www.nuis.ac.jp/university_annai/#link02 卒業要件 http://www.nuis.ac.jp/pub/common/pdf/sotsugyouyouken.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	新潟国際情報大学
設置者名	学校法人 新潟平成学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nuis.ac.jp/wp-content/uploads/2021/05/2_R2_kessangaiyou.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.nuis.ac.jp/wp-content/uploads/2021/05/2_R2_kessangaiyou.pdf
財産目録	https://www.nuis.ac.jp/wp-content/uploads/2021/05/2_R2_kessangaiyou.pdf
事業報告書	https://www.nuis.ac.jp/wp-content/uploads/2021/05/1_R2_jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.nuis.ac.jp/wp-content/uploads/2021/05/3_R2_kansahoukoku.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和3年度事業計画 対象年度:令和3年度)
公表方法: https://www.nuis.ac.jp/university_houkoku/
中長期計画(名称:中期計画II 対象年度:令和2~6年度)
公表方法: https://www.nuis.ac.jp/pub/common/pdf/mid_and_long_term_plan2020.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.nuis.ac.jp/pub/common/pdf/hyouka/jikohyouka_h26.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.nuis.ac.jp/pub/jihe.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際学部/経営情報学部/情報文化学部
教育研究上の目的 (公表方法: ホームページ) https://www.nuis.ac.jp/university_kyoikukohyo/
(概要) 国際学部 交通や通信が爆発的に進歩した現代の社会では、人々の国境を越えた交流はますます密になり、地球上のあらゆる地域の動きがここ新潟でもダイレクトに交差している。市民としての認識の力をつけていく上で、国際社会に対する幅広い教養は必須のものだといえる。国際学部国際文化学科の基本的なねらいは、こうした地球時代に真摯に向き合い学ぼうとする人々に真に自由な学びの場を提供することにある。
経営情報学部 経営情報学部では、経営学に関する基礎的な知識、さらには、企業や組織体の目的と構造、経営資源(人、物、金、情報)のマネジメント技術、システムの戦略的なプロセスの実践に活用できる知識や技術などを習得することで、社会・経済の発展や人々の豊かさに貢献しながら、より効率的で効果的な経済活動、より健全な企業経営を実現できる人材を育成する。
情報文化学部 情報を使いこなすための知識と技術、社会環境や人間活動に深く関わる情報システムの機能と仕組みを習得し、社会に対する責任を果たしながら、情報社会の発展に貢献できる人材を育成すること。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: ホームページ) https://www.nuis.ac.jp/university_kyoikukohyo/
(概要) ディプロマポリシー【学位授与方針】 国際学部 卒業までに達成すべき学習基本目標 ・グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な眼差しをもって向きあう実践的な態度を獲得し、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること。 ・高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること。 ・新潟という地域社会にあって、上記の学術的素養を日々の生活に活かす方途をたえず摸索する強い意欲をもち、これを具体化していく社会関係構築能力を獲得していること。 卒業までに達成すべき具体的な基準 ・全学基礎科目・学部基礎科目・専門科目より 126 単位以上を修得していること。 ・全学基礎科目・学部基礎科目の両科目群より所定の単位数を修得していること。 ・専門科目群より所定の単位数を修得していること。 ・卒業論文のための研究過程を通じて自立的な研究遂行能力を獲得していること。また卒業論文中間報告会および卒業論文最終発表会において論文の判定を受け、最終的に合格すること。

- ・専門科目の語学系科目群より所定の単位数を修得していること。

経営情報学部

経営情報学部では、地域の教育機関と連携しながら産業界等のニーズ及びその変化に対応した教育研究を行うことで社会や地域に貢献するとともに、健全な企業経営を通じてより効率的で効果的な経済活動を実現するため、経営学全般に関わる知識、情報を使いこなすための知識、人間活動や社会環境に深く関わる情報システムの機能と仕組みを習得し、社会に対する責任を果たしながら、組織経営の変革及び情報社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。

具体的には、経営学に関する基礎的な知識、さらには、企業や組織体の目的と構造、経営資源（人、物、金、情報）のマネジメント技術、システムの戦略的なプロセスの実践に活用できる知識や技術などを習得することで、社会・経済の発展や人々の豊かさに貢献しながら、より効率的で効果的な経済活動、より健全な企業経営を実現できる人材を育成する。

これらの教育目的を達成するために、次に掲げる目標の達成に努める。

- ・健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決に取り組むことができること。
- ・国際理解とコミュニケーションに必要な英語力の基礎があること。
- ・情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること。
- ・自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること。

情報文化学部

卒業までに達成すべき学習基本目標

- ・健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。
- ・グローバルなネットワーク社会で活躍するための、国際理解とコミュニケーションに必要な英語力の基礎があること。
- ・情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。
- ・仕事の仕組みを系統的に考え、データを重視した論理的な判断ができること。
- ・情報システム学について理解し、情報システム領域の基本的な専門技術を修得していること。
- ・自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.nuis.ac.jp/university_kyoikukohyo/

（概要）

カリキュラムポリシー【教育課程の編成・実施方針】

国際学部

交通や通信が爆発的に進歩した現代の社会では、人々の国境を越えた交流はますます密になり、地球上のあらゆる地域の動きがここ新潟でもダイレクトに交差している。市民としての認識の力をつけていく上で、国際社会に対する幅広い教養は必須のものだといえる。国際学部国際文化学科の基本的なねらいは、こうした地球時代に真摯に向き合い学ぼうとする人々に真に自由な学びの場を提供することにある。このねらいのもと、（１）英語・中国語・韓国語・ロシア語から主言語と副言語を選択し、（２）国際社会への理解を深める授業を幅広く履修し、（３）高度なコミュニケーション能力の修得を目指したゼミナールに４年間継続して参加するという三つの柱を立て、これを全学基礎科目（経営情報学部と共通）、学部基礎科目、専門科目に分け、４年間・126単位を卒業要件とする形で、カリキュラムを構成している。

経営情報学部

経営情報学部では、経営学に関する基礎的な知識、さらには、企業や組織体の目的と構造、経営資源（人、物、金、情報）のマネジメント技術、システムの戦略的なプロセスの実践に活用できる知識や技術などを習得することで、社会・経済の発展や人々の豊かさに貢献しながら、より効率的で効果的な経済活動、より健全な企業経営を実現できる人材を育成する。

さらに、ディプロマポリシーに掲げる目標を達成するために、学生の主体性を重視しながら、基礎学力を確立するための充実したリメディアル教育の実施（入学前演習の実施、入学後の学力試験の結果による能力別クラス編成や科目の必修化など）、さらにはより専門性が高められる専門科目の配置など、充実したカリキュラム体系を展開する。

具体的には、到達目標は下記の科目の学修に対応している。

- ・健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決に取り組むことができること（主に基礎ゼミナール、基礎科目の学修に対応）。
- ・国際理解とコミュニケーションに必要な英語力の基礎があること（主に英語科目の学修に対応）。
- ・情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること（主に専門科目の学部共通の学修に対応）。
- ・自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること（主に研究ゼミナール（経営学科）、卒業研究（情報システム学科）、卒業論文の学修に対応）。

情報文化学部

「情報を使いこなすための知識と技術、社会環境や人間活動に深く関わる情報システムの機能と仕組みを習得し、社会に対する責任を果たしながら、情報社会の発展に貢献できる人材を育成すること」を基本的な教育方針としている。「情報システムとは、社会または個人の活動に必要な情報の収集・蓄積・処理（加工）・伝達・利用に関わる仕組みであり、単にコンピュータを中心とした技術的なシステムを示すのではなく、社会環境や人間活動に深く関わる社会的なシステムである」という広い捉え方にたち、「情報とシステム」、「コンピュータと通信」、「人間と社会」、「経営と組織」の4つの分野を柱として、学習内容を構成している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：入学試験要項/ホームページ）

https://www.nuis.ac.jp/examination_admission/

（概要）

アドミッション・ポリシー

新潟国際情報大学は、情報社会を先導し、国・地域・人間の文化を尊重した上で、国や地域をこえて人類の福祉向上に貢献することを理念として、「国際化」と「情報化」に対応し、世界文化としての情報文化を理解し、その創造と発展に貢献できる人材を育成します。

国際学部

■期待する学生像

- 国際英語の習熟に向け努力することを欲する者。
- 国際英語に加え、中国語、韓国語、ロシア語のうち1言語を選択し、2言語以上の実践的運用力を身につけていこうと欲する者。
- アメリカ、中国、韓国・朝鮮、ロシアをはじめ、世界各地の歴史や文化を広くかつ深く学んでいこうと欲する者。
- 異文化理解を強く望みかつ実践し、地球的問題群へ向け自らの認識を広くかつ深く培っていこうと欲する者。
- 外国語の運用力をベースに世界各地の人びとと積極的にコミュニケーションを実現していこうと欲する者。

■入学前の推奨学習・推奨達成内容

- 基本6教科（地歴・公民・数学・国語・理科・外国語）全般にわたってその基礎を確実に学んでおくこと。
- 異文化理解を深めることを目的に、実践的なコミュニケーション能力の向上を目指して外国語の学習に取り組んでおくこと。とくに以下の学習に力を入れておくこと。

- ・自らの考えを表現するためのオーラル・コミュニケーションの学習。
- ・背景となる知識を活用しつつ未知の語の意味を推測し速読するための学習。
- ・場面や目的に応じて読み手が分かりやすく理解できる文章を作成するための学習。
- ・（英語の場合）基本5文型をはじめ不定詞・関係代名詞の用法、時制の基本、仮定法の用法、日常会話で頻出するイディオム、高校レベルの基本単語のアクセントの位置や発音など、基本の文法・語彙についての学習。
- 英語の学習についてとくに次の基準を達成もしくは達成へ向け努力していること。
 - ・高校3年生1学期末の外国語評定平均が3.5以上。
 - ・実用英語技能検定試験2級もしくは全国商業高等学校協会検定英語検定試験1級。
 - ・ケンブリッジ英語検定（PET）140点以上、GTEC（4技能版）OfficialScore790点以上、GTEC（3技能版）OfficialScore470点以上、IELTSTM4.5以上、TEAP226点以上、TEAPCBT420点以上、TOEFLiBT®50点以上、TOEIC®（L&R）500点以上。
- 世界史・日本史の学習に基づき、広い視野に立って社会の基本問題とくに現代史や時事問題の理解を深めるべく、地理や公民など社会科系科目の学習に取り組んでおくこと。とくに以下の学習に力を入れておくこと。
 - ・現代の民主政治の基本原理や憲法のあり方、経済社会の仕組み、国際社会の動向についての学習。
 - ・生命・環境・地域コミュニティ・情報社会など現代的な課題を倫理の側面から理解しようとする学習。
 - ・明治期以降第二次世界大戦を経て現在にいたるまでの世界史および日本史の学習。
 - ・世界地誌の視点から、グローバル化の進む現代世界と文化的な多様性について知識を深める学習。
- ボランティア活動もしくは海外留学の経験がある者あるいはその実現を目指し準備しようとしてきた者。
- 評価方法（抜粋）
- 国際学部では多様な入学試験を通じて、①「知識・技能」、②「思考力・判断力」、③「主体性を持って多様な人々と協同して学ぶ態度」という3要素を測る。
- 以上3要素すべてを平均的に修得しているか、もしくはいずれかの要素に秀でていることをもって、本学に入学する基本条件とする。

経営情報学部

■期待する学生像

（学部共通）

経営情報学部では、地域の教育機関と連携しながら産業界等のニーズ及びその変化に対応した教育研究を行うことで社会や地域に貢献するとともに、健全な企業経営を通じてより効率的で効果的な経済活動を実現するため、経営学全般に関わる知識、情報を使いこなすための知識、人間活動や社会環境に深く関わる情報システムの機能と仕組みを習得し、社会に対する責任を果たしながら、組織経営の変革及び情報社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的としている。

そのため、次のような関心、意欲が備わっている者を求める。経営学科及び情報システム学科の共通項目として、以下の4項目がある。

- 健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決することへの関心。
- 国際理解とコミュニケーションに必要な英語力を養うことへの意欲。
- 情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用することへの関心。
- 自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表することへの意欲。

（経営学科）

経営学科は、地域の教育機関と連携しながら産業界等のニーズ及びその変化に対応した教育研究を行うことで社会や地域に貢献するとともに、健全な企業経営を通じてより効率的で効果的な経済活動を実現するため、経営学の分野を主体的に学修し、それに関わる人

間活動や社会環境、及び情報や情報システムの知識を習得し、社会に対する責任を果たしながら、組織経営の問題解決を提案・支援・実現できる人材を育成することを目的としている。

そのため、共通項目の4つに加え、以下の5項目に意欲、関心のある者を求める。

- 地域の問題解決について、提案、支援、実現したい意欲。
- 情報システムを活かした企業経営に関わることへの意欲。
- 国際的な視野を備え、グローバルに活躍することへの意欲。
- 企業及び組織活動、企業及び組織経営、起業への関心。
- 人間活動や社会環境に配慮した問題解決ができることへの関心。

(情報システム学科)

情報システム学科は、地域の教育機関と連携しながら産業界等のニーズ及びその変化に対応した教育研究を行うことで社会や地域に貢献するとともに、健全な企業経営を通じてより効率的で効果的な経済活動を実現するため、人間や社会に関する幅広い視野を持って、情報を使いこなすための知識、情報システムの機能、仕組み、設計・開発手法を習得し、社会に対する責任を果たしながら、情報システムの企画・設計・開発・管理・運用のできる人材を育成することを目的としている。

そのため、共通項目の4つに加え、以下の6項目に意欲、関心のある者を求める。

- 情報を使い新しい価値を創造したい意欲。
- 情報システムの企画・設計・開発・運用・活用したい意欲。
- 自らプログラミングをベースとしたものづくりをしたい意欲。
- 与えられた環境下で費用対便益を考慮して幅広い視野で問題解決することの意欲。
- 仕事の仕組みを系統的に考え、データを重視した論理的な判断ができることへの関心。
- 情報処理技術とネットワーク技術、情報と情報システムの企画・設計・構築等に携わることへの関心。

■入学前の推奨学習・推奨達成内容

- コミュニケーション能力、経営学と情報システムを理解するための論理的思考力、特定の分野に強い興味を持ち、探求し続ける能力を向上させるため、高等学校の授業科目や課外活動などに積極的に取り組むこと。
- 国語の学習については、文章を読んで、内容を的確に理解したり、表現したりする文章理解・表現能力を訓練すること。自分の考え・意見を論理的に話したり、他人の意見を理解したりするコミュニケーション能力を身につけるように努力すること。
- 数学の学習については、日常生活で数学を活用し、理解する能力、物事を数理的にとらえ、考える能力、新聞などにあるデータを整理・分析し傾向を把握する能力を身につけるように努力すること。
- 外国語を通しての、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことなどの基礎的な能力を身につけるように努力すること。
- 関心のある教科、継続的に学習して得意になった科目について、また、興味・関心のあるもの・ことを見つけ、より深く習得し続ける能力を身につけるように努力すること。
- 資格を取得するなどの成果があるとさらに望ましい。

■評価方法（抜粋）

- 経営情報学部では多様な入学試験を通じて、①「知識・技能」、②「思考力・判断力」、③「主体性を持って多様な人々と協同して学ぶ態度」という3要素を測る。
- 以上3要素すべてを平均的に修得しているか、もしくはいずれかの要素に秀でていることをもって、本学に入学する基本条件とする。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.nuis.ac.jp/pub/common/pdf/soshiki.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
国際学部		10人	8人	3人	人	人	21人
経営情報学部		14人	7人	3人	人	人	24人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				69人			69人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：研究者総覧					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際	100人	126人	1.3%	400人	511人	1.3%	—人	1人
経営情報	150人	192人	1.3%	600人	748人	1.2%	—人	—人
情報文化	—人	—人	—%	—人	15人	—%	—人	—人
合計	250人	318人	1.3%	1,000人	1,274人	1.3%	—人	1人
(備考) 平成30年度より、情報文化学部を経営情報学部へ改組。								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際学部	116人 (100%)	1人 (%)	98人 (%)	17人 (%)
経営情報学部	186人 (100%)	0人 (%)	162人 (%)	24人 (%)
合計	302人 (100%)	1人 (%)	260人 (%)	41人 (%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
国際	132人 (100%)	109人 (82.6%)	17人 (12.9%)	6人 (4.5%)	0人 (0%)
情報文化	200人 (100%)	177人 (88.5%)	11人 (5.5%)	12人 (6.0%)	0人 (0%)
合計	332人 (100%)	286人 (86.2%)	28人 (8.4%)	18人 (5.4%)	0人 (0%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
シラバスの作成過程にあたり、大学や学部の教育理念及び個々に行われる講義の目的、講義を通じて達成されるべき到達目標をカリキュラムポリシーやディプロマポリシーに沿って作成する。シラバスは、本学ポータルサイトにより、授業科目ごとに担当教員が作成する。シラバスの様式は、各回の授業ごとに項目と内容を記述する。なお、シラバスには、授業科目、単位数、開講学期、担当教員名、実務経験の有無、科目区分(カリキュラムマップへのリンク)、関連するディプロマポリシー、ナンバリング、授業の目的、学修到達目標、実務経験との関連性、授業計画、授業時間外の学習、成績評価(評価基準・方法、フィードバック方法)、アクティブラーニング(実施の有無・実施内容)、教科書/参考書、受講上の留意点等、JABEEについて記載する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
担当教員の主観的なものにならないように、学生にあらかじめ示した客観的な成績評価方法・基準をシラバスに記載している。成績評価方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果の評価を行い単位を与えている。なお、履修登録上限は22単位であるが、3年次前期(5セメスター)終了時に通算で100単位以上取得している学生に限り、3年次後期(6セメスター)以降の履修登録上限は24単位まで認めている。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
国際学部	国際文化学科	126単位	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	22単位
		単位	有・無	単位
経営情報学部	経営学科	126単位	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	22単位
	情報システム学科	126単位	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	22単位
情報文化学部	情報システム学科	126単位	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	22単位
			有・無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.nuis.ac.jp/university_kyoikukohyo/
校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
国際学部 経営情報学部		675,000円	100,000円	400,000円	
国際学部 経営情報学部		675,000円	100,000円	350,000円	
情報文化学部 国際学部		675,000円	100,000円	335,000円	

中段 平成 31 年度以前の入学者
下段 平成 29 年度以前の入学者

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 奨学金として、経済的なサポートと学業の奨励を目的としたさまざまな制度を設置。表彰奨学金、海外派遣留学制度奨学金、資格取得奨励奨学金、学費臨時給付奨学金、20th 記念奨学金など多様な給付奨学金により、充実した修学支援に取り組んでいる。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) 2 年次後期に「キャリア開発 1」を開講し、さまざまな思い込みや今までの人生経験からの狭い価値観にとらわれることなく、自分の可能性や価値を広げる学生生活の設計及び推進を図る。認知心理学やポジティブ心理学理論を学び、自分の生活を見直し、学生生活を向上させることで、進路選択やその後の人生にどう関わっていくかを学び、興味や意識を醸成する。3 年次前期の「キャリア開発 2」では、進路を意識した目標、目的の設定と実践から就職の実現に役立て、雇用や就職活動についてより深く理解し、インターンシップなどを通して就職関連の知識を得て実践に役立てている。また、雇用に関わる法律などをより深く学び、意識を高めることや自己肯定や自己効力感の強化を図ることで、より前向きな将来設計への意識や行動の実践を図っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 学生相談室及び学生支援センターを設置。学生相談室には臨床心理士が月 3 回、曜日及び時間を定めて在室しており、学生の様々な相談(カウンセリング)に応じている。また、学生会館内の学生支援センターには学務課職員(看護師)がおり、学生の様々な相談に対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.nuis.ac.jp/university_kyoikukohyo/
組織図[PDF] <http://www.nuis.ac.jp/pub/common/pdf/soshiki.pdf>